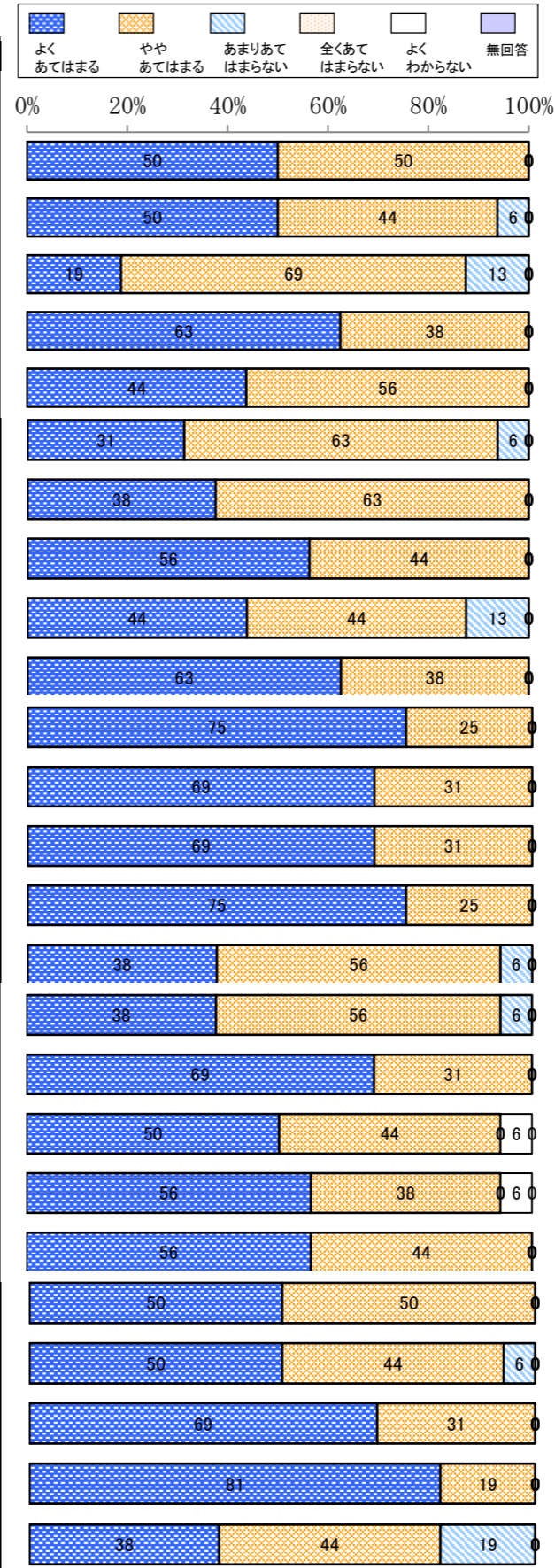


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	28 31	54 59	13 3	1 0	4 6	0 0
	2	児童・生徒の様子	64 39	28 53	6 4	2 2	1 2	0 0
	3	基本的な生活習慣	40 23	46 65	12 8	2 2	1 2	0 0
	4	児童・生徒理解	33 32	39 51	18 8	4 0	6 8	0 0
	5	健康・安全・安心	60 45	29 47	8 6	1 0	1 2	0 0
学力向上の取組	6	分かる授業	51 33	38 50	8 7	1 1	1 8	0 0
	7	個に応じた指導	62 21	31 56	4 8	1 1	2 14	0 0
	8	学習習慣	63 35	23 54	9 6	3 0	1 5	0 0
	9	情報教育	57 33	29 51	12 7	1 0	1 9	0 0
	10	学校図書館の活用	55 49	33 42	9 6	1 0	1 4	0 0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	69 26	26 52	3 7	0 2	1 13	0 0
	12	道徳教育	41 26	40 53	13 6	2 3	5 13	0 0
	13	教育相談	45 23	27 51	16 7	6 2	7 17	0 0
	14	人間関係づくり	78 66	19 31	3 2	0 1	0 0	0 0
	15	自主的な活動	60 51	31 43	7 2	1 0	1 4	0 0
保護者・地域との連携	16	情報発信	45 38	30 51	11 5	2 3	12 3	0 0
	17	相談への対応	53 34	33 48	8 11	1 1	5 6	0 0
	18	学校への参加	61 42	20 52	11 5	4 0	4 1	0 0
	19	地域との連携	32 28	31 44	23 3	10 0	4 24	0 0
	20	意見の反映	51 22	28 41	7 9	2 0	13 27	0 0
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	50 30	35 47	10 4	2 1	3 18	0 0
	22	基礎・基本の定着	37 32	37 49	17 6	4 0	5 13	0 0
	23	自主的な休み時間の活用	70 47	20 46	9 1	1 0	1 5	0 0
	24	感染症予防の徹底	69 54	26 42	3 1	1 0	2 2	0 0
	25	外部人材の活用	49 20	31 42	9 6	3 1	7 31	0 0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

○児童の肯定群が82%、保護者の肯定群90%となっている。学校目標をより意識して生活していけるよう、なじみ深い3つのキャラクターを生かしながら、引き続き伝えていく必要がある。

◎肯定的評価が児童・保護者ともに92%となっており、いずれも高い割合となっている。引き続き、児童が生き生きとした楽しい学校生活を送れるよう、きめ細かな指導や声掛けを行っている。

○児童の肯定群が86%、保護者の肯定群が88%と昨年度とほぼ同じ割合となっている。挨拶については、個人差が見られるので、自発的に行うことができるよう、引き続き力を入れて指導する。

△保護者の83%が肯定群であるものの、児童の肯定群は72%に留まっている。一人一人の良さを伸ばし、自己肯定感を高めていけるような指導の工夫を、丁寧に行っていく。

◎昨年度に引き続き、児童の89%、保護者の92%が肯定群であり、高い割合となっている。毎月行っている避難訓練や安全指導等の成果だと思われる。引き続き防災教育の意義について周知していく。

○児童の肯定群が89%、保護者の肯定群が83%となっており、一定の肯定的評価を得られていると言える。今後も、より一層の授業改善を行い、分かりやすい授業を実践していく。

△児童の93%が肯定群であるものの、保護者の肯定群は77%に留まっており、よく分からないが14%であった。算数少数指導やあらかわ寺子屋の活用の実施を図るとともに、取り組みを周知していく。

○保護者の89%が肯定的にとらえている。あらかわ寺子屋の実施や、家庭での学習課題の提示・見取りなどを通して、授業以外での学習習慣の定着が進んでいると言える。

○児童の86%、保護者の84%が肯定群であるが、昨年度より下回っている。1人1台のタブレットPCを各教科・領域で活用した授業づくりに力を入れていく。

◎児童・保護者ともに、約90%の肯定的評価を得ている。蔵書の充実や調べ学習での活用、読書賞への取り組みや読み聞かせ等で、学校図書館が十分に活用されていることが分かる。

○児童の肯定群は95%と多く、いじめ発見アンケートやその後の指導などが安心感につながっていると考えられる。一方、よく分からないとする保護者も13%おり、取り組みを周知していく。

○児童・保護者ともに、約80%が肯定群である。引き続き、ねらいとする道徳的価値に迫れるような授業を工夫するとともに、日常での指導も行っていく。

△児童の肯定群が72%、保護者の肯定群が74%であるが、児童や保護者の「よく分からない」がそれぞれ7%、17%いる。スクールカウンセラー等、幅広く相談できる体制であることを折に触れて伝えていく。

◎児童・保護者ともに97%と、高い肯定的評価を得ている。様々な行事や活動を通して、望ましい人間関係を築き、仲良く学校生活を送ることができていることが分かる。

◎児童・保護者ともに90%以上の肯定的評価を得ており、児童が自ら考えながら活動できるように工夫することができていると言える。今後も自主的な活動ができるようにしていく。

○児童の12%が「よく分からない」であるが、保護者の89%は肯定的評価である。ホームページの日常的な更新や、学校だよりや学年だより、配信メール等が効果的であるとえられる。

○児童の86%、保護者の82%が肯定群である。連絡帳や電話による、家庭からの連絡・相談について、素早い対応を心掛けていることが反映されていると考えられる。引き続き、適切な対応をしていく。

◎感染症対策を十分に行いながら、学校行事や授業公開を行ったことで、保護者の肯定的評価は94%となった。今後も状況を見ながら、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫していく。

△昨年に引き続き、児童の否定群や「よく分からない」が多い結果となった。その中でも、保護者からは72%の肯定的評価を得ている。今後も地域との連携を積極的に図っていく。

△児童・保護者の「よく分からない」がそれぞれ5%・6%上昇し、13%・27%となっている。行事や公開ごとにアンケートを取っているが、それを受けて改善したことを周知することに取り組んでいく。

○昨年度まで行っていた英語の研究『主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成』を今年度も実践している。1年生から継続して取り組むことで、肯定的評価につながっているとえられる。

△多くの児童が基礎・基本をもとに主体的な学びに生かしているが、21%の児童は否定群である。マスタータイムやあらかわ寺子屋のさらなる活用等、基礎・基本の定着に向けた取り組みを強化していく。

◎90%の児童が、休み時間には校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、自分で考えながら楽しく過ごすことができていた。保護者もそのような児童の様子を理解していると考えられる。

◎児童の95%、保護者の96%が肯定的評価をしている。引き続き、状況に応じながら感染症対策を徹底しながら、教育活動を推進していく。

△80%の児童が肯定的評価をしている一方で、保護者の肯定的評価は62%に留まり、「よく分からない」の回答が31%であった。外部人材を活用した際には、HPや学年だより等で周知を図っていく。